

避難場所に町が設置した備蓄倉庫に保管しています。今後も定期的に点検し、使用期限の経過するものは取り替えるなど、自主防災組織と協議しながら備蓄品の充実に努めていきたい。

**岩田住民福祉課長**

災害弱者の中でも特に発達障害児の支援は、日頃から生活面等で支援している人が関わることが有効であると考えられるが、災害時にこの人達が支援できる有効な手立てがないのが現状です。現在、災害弱者に対する支援計画は、確立されていませんが、今後、行政から発信を行い自主防災組織や関係住民等と協議しながら、全ての災害弱者を網羅した計画等が構築できるように検討を重ねたい。

**女性の視点での  
防災リーフレットと  
緊急連絡手段を**

**一山議員**

東日本大震災では、女性

への配慮がなされていない現実直面したこと、防災対策に女性の視点を生かそうと新たに防災リーフレットを作成し、男女双方の視点から、避難所づくりや運営のポイント、日頃の備えなどがまとめられ、小中学校や自治会に配られ好評を得ておりますが、本町の防災リーフレットはどのようになっているのか、また、計画には女性も参加しているのか。

災害時携帯電話がつながりにくくなることから、周波数を合わせておけば、全員が状況を同時に把握できるトランシーバーを配備しているところもある。自主防災組織や小中学校、消防団、避難所に備蓄品として置いてはと思うが。

**福井町長**

防災リーフレットは、女性にとり肝心なことが記載されていない。特に妊婦、乳幼児を連れられたお母さんへの配慮が欠けており、女性の視点を入れた防災リーフレットの作成が必要である

と聞いています。地域に身近な情報を提供するために、町独自で作成する必要もあると思いますので、その時は女性にも参加いただきたい。

**仁田総務課長**

防災行政無線の携帯型無線機を消防団幹部、小学校、保育園、無線局、自然の家に合計16台設置しており、今後も検討を進めていきたい。また、通常の通信手段が機能しなくなったときには、衛星携帯電話を配備しており、県、警察署、消防組合、海部病院などの連絡も可能です。

**DMVの導入は**

**一山議員**

阿佐海岸鉄道の赤字路線再生のため、DMVの実証走行が行われ、県は営業運転を海南駅から甲浦駅間で行う方針を決め、駅舎改築基本計画をまとめ、海南駅

はアクセス道の整備費が抑えられることから起点の駅に決めJR四国の理解も得ていると言っています。

実証走行は、牟岐駅から行われたため、多くの人が牟岐駅が起点だと思っております。本来、DMVは阿佐東線の運行目的で導入するのですが、新聞報道を見て「あれ」と思った人もいますが、各町にどのような説明があったのか、牟岐駅を起点とした場合としない場合、本町への経済効果への影響はどうか、また、本町からの補助金はどうなるのか。

**仁田総務課長**

DMV導入については、基本計画と建設コストの試算をしており、海部駅ではかなり高額になり、海南駅だとコストが大変安くなると

いうことでJR四国と県を含めて協議中で、海南駅に決まったわけではないです。なお、起点が牟岐駅まで延びると阿佐海岸鉄道の運行区間が延び、負担がかかるので区間延長は難しいです。経済効果は南部バス、JRとの協議がされていないので今のところわかりませんが、導入後の牟岐町の負担は決まっていますが、今後の状況に注目していきたい。



DMVの運行試験